

地域福祉保健施設の分布



施設リスト

- ◆認可保育所
- ① 明德二俣川保育園
  - ② 横濱あんじゅ保育園
  - ③ 太陽の子二俣川駅保育園
- ◆小規模保育事業
- ④ 旭ローズ保育園
  - ⑤ おれんじハウス二俣川保育園
  - ⑥ 保育園スマイルキッズ二俣川駅前
- ◆家庭的保育事業
- ⑦ ひより保育室
  - ⑧ 幼稚園
  - ⑧ 横浜昭和幼稚園
- ◆地域子育て支援拠点
- ⑨ ひなたぼっこ

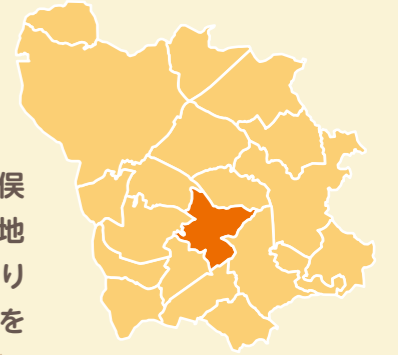
- ◆小規模多機能居宅介護
- ◇ コラージュ二俣川
- ◆特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム)
- ◇ サニーステージ二俣川

- ◆相談機関
- ① 神奈川県ライトセンター
  - ② 旭区基幹相談支援センター
  - ③ 【通】中途障害者地域活動支援センター フェニックス旭
- ◆地域活動ホーム
- ④ 障害者地域活動ホーム ふたまたがわ
- ◆その他の施設(通所、入所、障害児)
- ⑤ 【通】くろみの木
  - ⑥ 【通】工房アリアーレ
  - ⑦ 【通】ピアジョブサポート 二俣川

説明  
[入]: 入所施設  
[通]: 通所施設  
[児]: 障害児施設

第4期  
きらっとあさひプラン

二俣川 地区

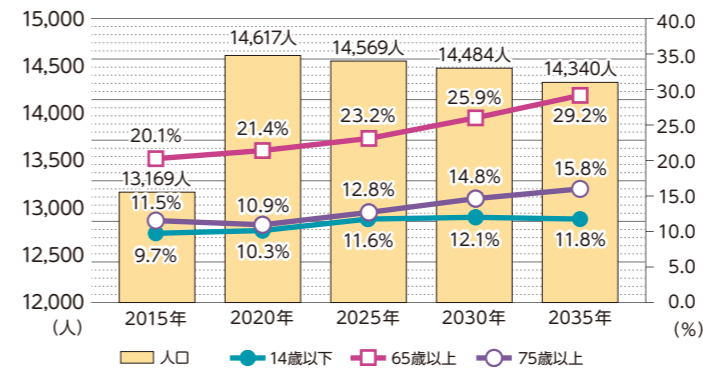


二俣川地区は、二俣川駅周辺の相鉄本線と厚木街道を軸とする地区で、二俣川駅、保土ヶ谷バイパス本村ICがあり、交通の要衝です。二俣川駅南口市街地再開発事業により大型商業施設が完成し、賑わいと人の流れが大きく変わりました。二俣川駅北口には、区や県の公共施設が多く立地するとともに、駅を中心に商業施設が集積しています。

DATA

将来人口推計

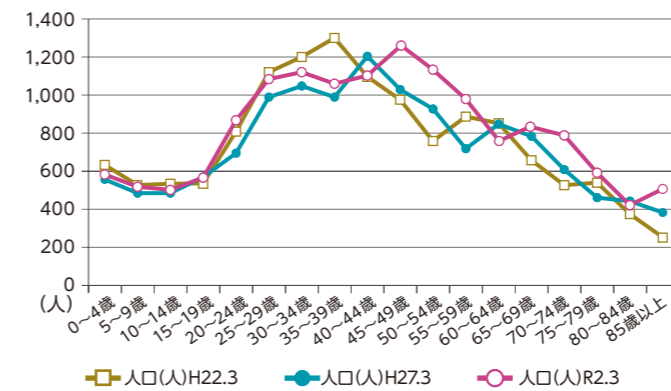
出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁別世帯と男女別人口」(各年3月末現在)



将来人口推計は、2020年をピークに緩やかに減少が推測され、65歳以上の比率は2035年に約30%に達します。  
14歳以下の比率は、総じてほぼ横ばいに推移することが推測されます。

年齢5歳別人口の動向

出典：横浜市統計ポータルサイト(各年3月末現在)



平成22年には35～39歳であった5歳別人口数のピークは、令和2年には45～49歳となっています。また、平成22年・27年に比べて年少人口はほぼ横ばい、85歳以上の人口は増加しています。  
65歳以上の高齢者の割合は、平成27年には20.1%、令和2年には21.4%となり、やや高齢化が進んでいます。区平均の29.2%は大きく下回っています。

人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	H22	H27	R2	H22～R2 増減数	H27 構成比(%)	R2 構成比(%)	R2 区平均 構成比(%)
総人口(人)	13,499	13,169	14,617	1,118	100.0	100.0	100.0
0～14歳(人)	1,684	1,517	1,595	▲89	11.5	10.9	11.6
(内0～6歳(人))	845	736	784	▲61	5.6	5.4	4.9
15～64歳(人)	9,493	9,002	9,898	405	68.4	67.7	59.2
65歳以上(人)	2,322	2,650	3,124	802	20.1	21.4	29.2
(内65～74歳(人))	1,173	1,377	1,616	443	10.5	11.1	13.2
(内75歳以上(人))	1,149	1,273	1,508	359	9.7	10.3	16.0
総世帯数(世帯)	6,430	6,428	7,504	1,074	-	-	-
平均世帯規模(人/世帯)	2.10	2.05	1.95	▲0.15	-	-	2.13

出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁別世帯」、「町丁別年齢別男女別人口」(各年3月末現在)

※人口・世帯数の数値は町丁目別単位での集計のため、町丁目地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



私たちが描く地区の未来図

『誰もが困っていることを相談できるまち』

より住みよく、安全安心なまちにするために、地域としてのつながりを深め、顔の見える関係の中で、互いに見守り・安心して助け合いのできるまち、手を差し伸べることのできるまちづくりを進めます。

目標と主な取組

目標 A 地域への関心を高める

- 自治会町内会へ加入しない新しい世帯が増えていることから、地域活動を周知する。



▲夏祭り 提灯



▲健民祭 玉入れ



▲餅つき大会

目標 B 交流の場づくり

- 地区にコミュニティ施設がないという状況はあるが、一人暮らし高齢者向けの「はなみずきの会」、中途障害者向けの「ひまわり会」、未就園児の親子向けの「ピョピョクラブ」、小中学生向けの「しみずがおか食堂」など、既存の活動の継続等を支援する。



▲はなみずきの会 食事風景



▲ひまわり会 運動風景



▲ピョピョクラブ 親子で体操

目標 C 助け合えるまちづくり

- 神奈川県ライトセンターやフェニックス旭などが設置されていて、障害のある方の来訪が多い街であること、コロナ禍で自ら助けを求めることが難しい事情のある方もいることから、困り事を抱える方の情報を収集し、啓発や取組みを進める。
- 二俣川小学校の建て替え計画に合わせ、児童の安全な通学路を確保する。
- 地域の支え合いである「桐の会」の担い手が高齢化していることから、新たな地域の担い手を養成する。
- 既存の福祉保健施設等の連携強化を進める。



▲防災訓練



▲おたすけ無料頒布会・生活相談会



推進体制

住みよいまちにするための検討会…

地区社会福祉協議会、自治会・町内会、民生委員・児童委員協議会

地域の方へのメッセージ

二俣川地区では、第4期地域福祉保健計画策定のため、各自治会町内会長、各種団体（老人クラブ、民生委員、保健活動推進員等）にアンケートを実施し、「誰もが困っていることを相談できるまち」を未来図として掲げました。実現には難しい未来図ですが、高齢者、若者、障がい者、子ども等、様々な人が行きかう（住む）二俣川地区として、「おたがいさま」の気持ちで、「助けて」を言い合える二俣川を目指します。そのためには、地域住民が共に考えていければと思っています。

第3期の振り返り

- 第3期は、「ボランティア活動や地域の担い手につながる人づくり」として、桐の会（家事援助等ボランティア）やはなみずきの会（高齢者向け食事サービス）、ピョピョクラブ（子育て地域サロン）、子ども・

高齢者等誰もが立ち寄れる場づくり」として、しみずがおか食堂（こども食堂）やひまわり会（中途障害リハビリ）、「災害時の要援護者の方への支援体制づくり」として、防災マップの作成や被災時における障がい者理解など、様々な活動に取り組みました。



▲防災マップ 検討会



▲しみずがおか食堂



▲防災マップ